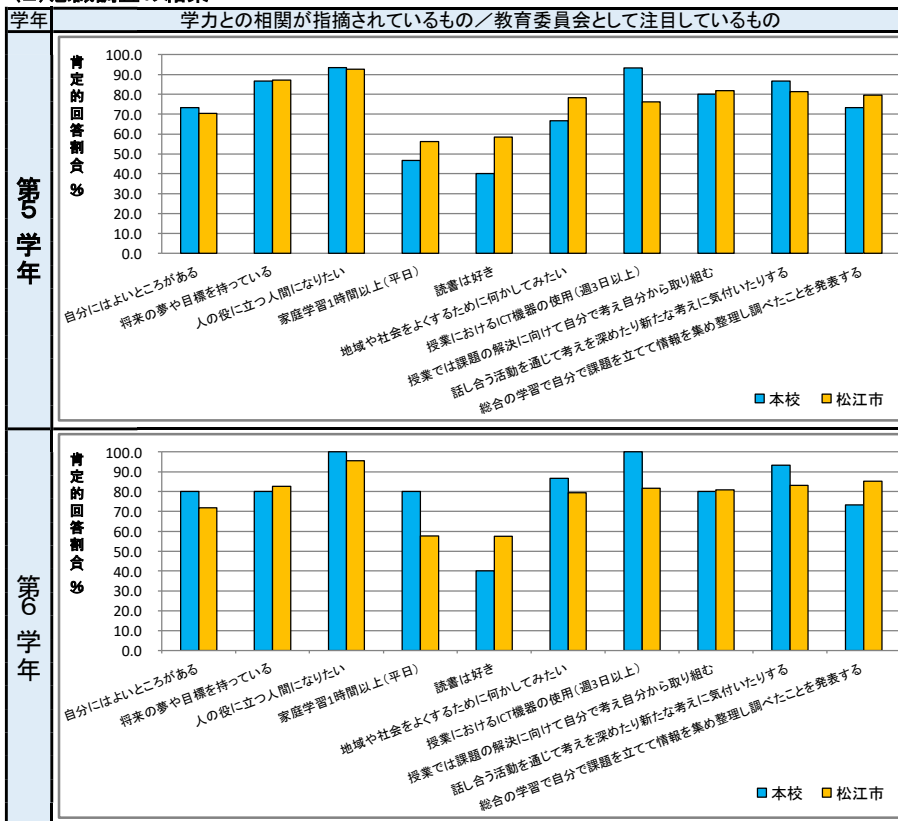


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(※)
第5学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」については比較的正答率が高い。 課題 ●「書くこと」については、正答率が0.0%となっているものがあり、正答率が低い。 ●言語に関する内容(連体修飾語・漢字の由来)の正答率が極めて低い。	・書く力をつけていくために、朝学習でのかみつきタイムを継続していく。ただし、内容については「お題について書く」だけではなく、「文章を読んで要旨を把握し、適切に問いに答える」という内容を取り入れる。 ・言語に関する内容の学習を反復して取り組むために、タブレットを使用したドリル学習を取り入れる。
	算数	成果 ○内容を聞き取る力(大問16)は全国よりも高く、説明の内容を適切に聞き取るという力が高い。 課題 ●思考力を問う問題の正答率が全体的に低い。 ●知識の領域については「体積」の部分が理解できていない児童が多い。	・学習した内容を、月ごとの計算会などを活用して復習する機会をこれからも継続して行う。 ・授業で重点的に取り扱っている部分については、正答率も高い傾向にあるため、今回の課題であるという計算の基礎となる数の概念や量感を重点に取り扱っていく。 ・算数の授業での少人数指導をこれからも継続して取り入れる。
第6学年	国語	成果 ○知識・技能、思考・判断ともに市平均を上回る。 ○聞いたことを基にして、自分の考えを表すことが得意。 課題 ●記述式の問題の正答率が他項目に比べ低い。	・朝学習での書く活動を継続する。 ・説明文の要旨をまとめる活動を重視した学習過程を計画する。 ・根拠を明らかにしたり、過去や他の学習と関連付けたりするなどして、論理的に説明する活動を、国語科だけでなく他教科(理科・算数科など)でも意図的に設ける。
	算数	成果 ○思考・判断・表現が市平均を6ポイント以上上回る。 ○およそ3分の2の児童は、学習内容を理解できている。 ○図形、変化と関係領域の学習内容を理解できている児童が多い。 課題 ●分数のかけ算、わり算など基礎的な計算が苦手。	・授業や家庭学習の時間を活用し、基礎的な学習内容(計算)の習熟を図る。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】
 ○人の役に立ちたいと思ったり、自分の良さに気付いたりしている児童が多く、自己肯定感が高い児童が多い。
 ●読書が好きと答える児童が市の平均を下回っている。
 ●地域や社会に対する貢献意欲がやや低い。そのため、地域の方々と触れ合ったり、地域で活動したりすることを取り入れる。

【第6学年】
 ○人の役に立ちたいと思う意識が高く、自分の良さに気づいている児童が多い。
 ○毎日1時間程度の家庭学習ができている児童の割合が高い。
 ●読書が好きと答える児童の割合が市の平均を下回っているため、従来の読書活動に加え、担任が本を紹介する活動等を行う。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	15	名
第6学年	15	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示